

フィリピンの漁村から

～文化人類学の視点から～

CODE



【台風の被害の様子】

今回のテーマ国は「フィリピン」です！
2013年11月にフィリピン中部を直撃した台風(Haiyan)によって6000人以上の方が亡くなりました。

CODEは、セブ島北部やバンタヤン島で漁業ボートの提供など救援活動を行いました。

【日時】 2018年 7月19日(木)

【場所】 CODE事務所

【語り手】 瀬木 志央さん

【参加費】 食事代800円



【申し込み】

E-mailで①氏名②フリガナ③所属④連絡先をご記入のうえ、件名を「食と国際協力参加希望」として下記メールアドレスまたは電話からお申し込みください

CODE海外災害援助市民センター

神戸市兵庫区中道通2-1-10

Eメール: info@code-jp.org

TEL:078-578-7744

Webサイト <http://www.code-jp.org/>

CODEは毎月第3木曜日に「食と国際協力」という“食”を通して世界の国々の文化や暮らしについて学ぶ場をつくっています！



【フィリピンの仲間と（左から2人目が瀬木さん）】

今回の語り手の瀬木さんは、甲南女子大学で文化人類学を専門にフィリピンを研究されています。フィールドワークでセブ島の漁村に1年間住み、現地の漁民と暮らしを共にされました。現在は、台風の被災地の漁村の復興状況も調査されています。豊富な経験をもとにフィリピンの漁業や漁村についてお話していただきます！

【今回の食】

シニガン
(フィリピンの酸っぱいスープ)



【プロフィール】 瀬木志央(せぎしおう)

甲南女子大学文学部多文化コミュニケーション学科講師。専門は文化人類学、政治生態学。2005年より、フィリピンの沿岸資源管理について研究をしており、セブ島を中心とするビサヤ地域でフィールドワークをおこなってきた。特にこの数年は、自然災害が人々の資源保護活動や生業活動に与えた影響について調査している。